

おはようございます。いきなりですが、クイズです。「昨日、五月二十九日に、池袋辺りで六十歳になった人ではなくて、モノがあります。それは何でしょう。」と、聞かれても分かる訳ないですよ。私は駅の近くにポスターが貼ってあったので気がつきました。

正解はT武デパート。T武デパートさんは、一九六二年の五月二十九日に誕生したそうで、昨日で六十歳になったそうです。では、次のクイズ。「T武デパートが四歳の誕生日の一日前に、日本の中で発見されたある物があります。それは何でしょう。」なんて聞かれても、分かるはずないですね。ヒントを言います。「鹿児島県という県にある、屋久島という島の中で発見されました。高学年の人で、ピンと来た人はいませんか。」正解は、「大きな杉の木。」前々から、地元の猟師さんの間では、大きな杉の木の話が、うわさになっていたようですが、岩川さんという方が、屋久島の標高千三百メートルの山の中腹を入ったところで発見しました。それが一九六六年の五月二十八日。T武デパートさんが四歳になる一日前です。

この大きな杉の木、まるでゴツゴツした岩のように見えたことと、発見者の岩川さんの名前の一字をとったのか「大岩杉」と名付けられたそうです。

この大岩杉、高さは25.3メートル。八階建てのビル以上の高さ。幹のまわりは16.4メートル。

幹のまわりにひもをまいて、そのひもをスルスルとビルの屋上から垂らすと、五階建てのビルから垂らしても余るほど。とにかく太くて、大きな杉の木だということが分かりますか。

ちなみに、屋久島の標高五百メートル以上に生えている杉で、樹齢千年以上の杉の木を「屋久杉」と呼びます。大岩杉は、屋久杉の中でも最大・最古と言われている木で、樹齢は最低でも二千年。最高で七千二百年だと言われています。幹の中に空洞の部分があつて、よく分からないのですが、どんなに少なく見積もっても、二千年。場合によっては七千二百歳と考えられるので、日本の古い、ふるい時代の「縄文時代」から生えていたのかもしれないということ、大岩杉は、「縄文杉」と呼ばれるようになりました。



屋久島は、沖繩のように亜熱帯の島でありながら千メートル級の山がニョキニョキ。山の上は北海道並みの気候。直径三十キロ、日本で七番目の大きさの島の中に、沖繩から北

海道までの気候が詰め込まれていると言われている島です。おまけに、「ひと月に三十五日雨が降る」と言われるほど雨の多い土地。やせた土なので、屋久杉の年輪の生長は、栄養不足のために、年に一ミリほどしか太くなりません。さらに、雨で腐って空洞化して死ぬのを防ぐために、木自身が油を出しています。つまり、屋久杉は、目の詰まったツルツル、スベスベのとても高級な材木になるのだそうです。そのため戦後の建築ラッシュの折、樹齢二千年を超える屋久杉がバサバサ切られてしまう時代もあつたようですが、今から四十年前に、樹齢千年級の屋久杉の伐採は禁じられました。

どんなに長く生きてもせいぜい百年くらいしか生きられない人間が、もうかるということ、二千年も生きていような木を平気で切ってしまう。考えただけでも恐ろしくなりませんか。

さて、今年はグローバルエクスカージョンを通常に近い形で行う予定でいます。これから、多少の変更について、保護者の皆様と相談しながら決めていきます。今年、屋久島に行く五年生が何人かいるそうです。うらやましい！屋久島の人たちが、どのようにして自然を守っているのか、縄文杉の偉大さを目の当たりにして感じた事など、お土産話を聞かせてくれたらうれしい限りです。

(立教小学校校長 田代 正行)